



## 会員近況

金沢大学工学部土木工学科 松浦 義満

私が、ライフ・ワークの1つとして最も力を注いでいる研究課題は都市計画にかかわるものです。これは都市における常住人口分布、住宅規模、住宅価格、住宅地の土地価格、通勤OD交通量、通勤交通の機関別分担率等の住宅・土地・交通にかかわる諸現象を説明しうる基礎理論を樹立しようというものです。

この研究の発端は都市交通網の整備の必要性が叫ばれたおおよそ20年前に交通網整備の経済効果の研究に手をつけはじめたところにあります。

その研究の過程において、1つの大きな社会矛盾を感じました。それは、公共事業としての交通網の整備は住民が平等に出資して実行されているにもかかわらず特定の住民の資産価値を上昇させるという結果を生じさせている点です。この公共投資における費用負担と便益享受の不公平に対する怒りが私の研究の原動力になっており、目下懸命に上記研究課題にとりこんでおります。

私が学生であった二十数年前、ある高名な先生から、「自分の最もやりたい研究課題は、若くかつ体力のあるときに手がけなければならない。いつか時間に余裕のときときにやろうとして雑事にかまけていてはならない。いざ自分の本来の課題にとりくもうとしたときには体力は衰え、気力もなくなってしまっているものだ」と諭されたことがあります。この言葉を肝に銘じて研究に没頭しております。

愛知大学  
法経学部経営学科 福田 治郎

お聞きおよびの方も多いかと思いますが、昨年11月に北京大学で中日合同の統計学シンポジウムが開かれました。日本側は九大の浅野教授を団長とする総勢約30名、その中に私も加えていただき、研究発表してきました。その時の内容を記す余裕はありませんが、中国の方々の話では、中国では1980年に日本とほぼ同じ大学院制度がしかれ全国で年間約5000名の修士が出るようになっており、すでに数十名の中国生まれの博士号も誕生している

とのことでした。ちなみに現在日本には約1000名の留学生が滞在中とも聞きました。いま中国が進めている4つの現代化の1つ「科学技術」のそれに大いに力を入れていることをひしひしと感じました。シンポジウムでも討論に参加する院生の姿も目立ち、わが国でもかくありたいと思ったことです。

最後にまったくの私事で恐縮ですが、私もいたずらに馬鹿を重ね、この3月で大学での生活を終わることになりました。これからは生硬(な)迂読の生活を送るつもりでおります。今後ともみなさまの御叱正をお願い申し上げます。

住友重機械工業  
シミュレーショングループ 堀尾 正彦

昨年12月に、システム(計算機)室から分離独立してシミュレーショングループとなりました。総勢7名ですが守備範囲は広く、CAD・構造解析を除いたもの、熱・流体等の連続系とマテリアルハンドリング等の離散系の問題解析一般です。手法はさまざま、数学・制御・ORに限りません。特に、モデル構築の重要性を痛感し、大学でもっと勉強しておくんだと後悔しきり。

最近、機械系の伝熱解析をやる一方、人工知能へのアプローチとしてTQCのFTA分析や故障診断エキスパートシステムを試作するためのLiSPの学習に多忙な日々です。

**編集後記**▶日々めまぐるしくかわるこのごろです。情報ネットワークの発達によって遠い国の動静も直ちにキャッチされマスコミで報道されます。私たちの感覚をそれに追従させるのはたいへんです。通常、目と耳で世の動きを私たちはとらえますが、最近の若者は体で感ずるのでしょうか。しかし“若者は”，とあなどるわけにもいきません。消費市場を先導するのは若者と女性という見方もあります。最近原宿で商品に対する若者のダイレク

でも、シミュレーションが仕事の一分野として認められたことで、今後はこの分野の事業化を、個人的には一流をめざして、出張ってきた腹を気にしながらもうひと頑張りという状況です。

神戸市長室  
企画調整部調査統計課 本荘 雄一

現在たずさわっている統一資料システムについて紹介する。神戸市においては、市内での行政計画の策定や日常の行政活動をサポートするためのコンピュータ・システム(統一資料システム)を開発し、科学的行政への活用を図っている。統一資料システムは、①指定統計データおよび業務データ、②計量経済、システムダイナミクスなどの問題解決分析のためのプログラム、③人口、経済などの予測分析モデルの3つの部分からなっている。

統一資料システムは、市行政のさまざまなレベルの意思決定を支援してきたが、昭和59年度には、新神戸市総合基本計画の改定を支援するため、「神戸社会経済シミュレーションモデル」を開発した。このモデルの機能は計画改定参加者に対して、①地域社会の重要な要素について長期予測に関する情報や、②さまざまな代替政策の効果に関する情報などを提供するものである。

今後DSS(意思決定支援システム)アプローチによって、統一資料システムのよりいっそうの機能の拡充を図っていきたいと考えている。

トな反応をみようとする、リアルタイム市場調査なるものを開始した組織があります。新たな手法の出現というところでしょうか▶「研究室だより」が定着してまいりました。どこで何をやっているかはおたがいに興味あるのですが、なかなかおもてに出てまいりません。ORの普及と発達のためには情報交換が重要であると思いますので、この欄をどうか有効にご利用ください。(J)

## オペレーションズ・リサーチ

昭和60年5月号 第30巻(新シリーズ第10巻) 5号 通巻293号

代表者 近藤 次郎

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
(電話 03-815-3351~2) 〒113

編集人 牧野 都治

発売所 株式会社 日科技連出版社  
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円(郵送料含)年間予約購読料 9600円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社(571-2548)、日経弘報社(583-2241)へ